

変革のとき

— Age of Innovation —

常務取締役
鈴木 隆 昭
T. SUZUKI



融和

光洋精工と豊田工機が合併し、新しくジェイテクト(以下 JTEKT)としてスタートしてから1年余りが経過しました。無事に門出ができましたのも皆様のご支援のおかげと感謝しております。新会社は、ステアリング、駆動、軸受および工作機械の4事業分野をもち、自動車部品における幅広い技術とそれを支えるコア技術であるトライボロジー、加工技術、制御技術などの多岐にわたる充実した技術を有しております。これらの幅広いコア技術を生かし、両社が持ち合せていた優れた文化や人材も含めた融和を図り、お客様の期待に応えていくことがJTEKTの使命であると考えます。

変革

21世紀に入りはや数年が経過しましたが、重厚長大が尊ばれ、大量生産・大量消費の時代から、静かに、かつ急速にニーズが変わってきております。世界のどこにいても瞬時にかつ簡単に多量の情報が入手できるIT技術やインターネット網の時代となり、その結果として勤務体系、ショッピングなど人間の行動の動線が大きく変わりつつあります。さらにバイオ技術や遺伝子技術の急速な進歩により医療が変わり、さらに食料事情も変わり、今や超長寿命の時代が目の前です。また、ナノ技術の進歩で超ミクロで物が動き、今まで手の届かなかったところの加工ができ、見えなかった微細部分まで見えるようになりつつあります。ロボットは二足歩行して人間の代わりの動作を人間以上の正確さをもって色々なことができるようになり、関節をもったロボットがこれまでのマシンではできなかった加工をします。多くの常識が変わりつつあるのです。JTEKTに関係する分野でいえば、油圧パワーステアリングは電動パワーステアリング(EPS)に変わり、すでに商品化されている自動パーキングシステムに加えて、安全走行のためのアクティブステアリング、さらには自動操縦システムの実用化も近未来に実現するでしょう。街と交通は立体化し交通手段は

自動で安全に動き回れるようなものとなるでしょう。あの鉄腕アトム漫画に描かれた世界が現実になりつつあるのです。

このような中で、いかに優れた開発とモノづくりをしていくかが大きな課題ですが、過去の常識にとらわれず、むしろこれらを脱却するべきで、従来の延長での改善に留まらないよう、知見を幅広く求めることが必要です。スピードも忘れてはなりません。1分、1秒の物理的長さは不遍ですが同じ瞬間に詰まる質量は大幅に増えています。生産でいえば同じ単位時間のアウトプットが過去の何倍(ドッグイヤーというたとえでいえば、7~8倍)もないと競争に勝てません。その昔、真空管で大成功していた会社がトランジスタへの切替えの開発と生産に乗り遅れたため、企業経営に大打撃を受けたという有名な話がありますが、今こそ既存概念を打ち破り、過去の成功体験を忘れ、失敗を覚悟して新たな領域への変革にチャレンジすべき時であると思います。

満足と感動のためのモノづくり

お客様にご満足いただくことは当然のこととして、感動が与えられる商品の提供によりお客様から付加価値が認められるものです。今までに無いもの、期待値以上の性能、美しさ、心地良さなど感動できるものこそ付加価値といえるでしょう。言い換えますと、事業の生命線ともいわれる品質についてはお客様に完全にご満足いただいた上で、他社にないオンリーワンといわれる技術を開発し、製造し、感動いただける商品を提供し続けていかなくてはなりません。

最後になりますが、グローバル競争が一層激化し、技術領域が変化する中で、JTEKTがモノづくりカンパニとして感動を与えることのできる商品づくりを継続していくためには、企業基盤のより一層の強化と充実に努め、地道なモノづくりの基本を忘れず、常に開発とモノづくりの面で弛まぬ変革を続けることが必要だと考えます。